

またも生かされなかった教訓

市原の乳児衰弱死

市原市で生後10カ月の小西紗花ちゃん(23)が保護責任者遺棄罪で逮捕された。紗花ちゃんは検診や予防接種を受けておらず、餓死を確かめてほしいという通報も寄せられていたが、市は約9カ月間、実際の姿を見ていなかった。本県では昨年、小4女児虐待死事件を受け、関係機関の連携強化がうたわれていたが、教訓は生かされなかった。

「組織として危機意識が低かった」。小出謙治市長は12日の臨時記者会見で対応の不備を認めて謝罪、今後第三者委員会を検証すると表明した。

紗花ちゃんは1月25日、自宅で過度に痩せて見つかり病院で死亡が確認された。低

平成31年3月	小西紗花ちゃんが生まれる
4月25日	市原市の保健師が新生児訪問で面会
令和元年9月26日	保健師が訪問し、父親がインターホン越しに対応。母子には会わず
12月18日	紗花ちゃんの兄が通う保育園から市に「姿を見ていない」と安否を心配する通報
20日	保健師が訪問するも母親が玄関で対応。紗花ちゃんとは会えず
2年1月23日	市の相談員と保健師が訪問。呼び鈴に応答なく引き返す
25日	自宅で衰弱した紗花ちゃんが見つかり、死亡が確認される
6月3日	県警が母親を保護責任者遺棄容疑で逮捕

識者「通報放置、理解できない」

栄養と脱水で衰弱死した疑いがあり、県警は適切な食事を与えず医療措置も受けさせることなく放置したとして、理紗容疑者を逮捕した。

市によると、昨年4月に保健師が生後1カ月の紗花ちゃんをアパートに訪ねた際、問題はなかったが、理紗容疑者の体調に心配があり公的な支援対象とした。

その後、保健師らが複数回自宅を訪問したが、インターホン越しや玄関での対応にとどまり、姿を直接確認していなかった。事件発覚の2日前にも抜き打ちで訪ねたが、呼び鈴に応答がなくなり返した。

市は「緊急性が高くなかった」と説明したが、紗花ちゃんの兄が通う保育園が昨年12月、送迎時に紗花ちゃんの姿を見ないため様子を見てほしいと2度にわたって市に要請していたことが発覚すると、「一転」児童相談所などに相談すべきだった」と落ち度を認めた。

同市では平成26年、生後8カ月の男児の虐待死事件があり、検証報告書で「安全確認は目標が基本」と指摘されていた。31年1月には野田市で小学4年の要死心愛さん(当時10)が父親から虐待を受け死亡している。

野田市の事件で市の検証委員会に加わった日本大の鈴木秀洋准教授(危機管理理学)は「他機関からの通報が放置されたのは理解できない。過去の事件の検証報告書などをり、組織としてできていたことできていなかったことを確認、検証することが必要だ」と指摘した。

「虐待死ゼロ」目標遠く

市原乳児死亡、県も点検へ

「千葉県の子どもの虐待防止条例」(2017年4月施行)に基づき県は、今後10年間の取り組みの「基本計画」を策定し、15日に公表した。昨年1月の野田市女児虐待死事件を踏まえて児童虐待死の「毎年ゼロ」を目標に掲げ、実現のために市町村との連携強化も打ち出した。しかし、市原市の生後10カ月の乳児、小西紗花(すずか)ちゃんが衰弱状態で放置され死亡していたことが今日明らかになった。本県に子どもの命を守る計画となるのが問われる。(関連記事17面)

乳児は今年1月に死亡。今月3日、保護責任者遺棄容疑で母親が逮捕された。市原市は、死亡前に県児童相談所に連絡しなかった点など不適切な対応を認め、第三者による検証委員会を設置する方針を示した。

これに対し、県児童家庭課は16日、森田健作知事が指示があったとして「市の検証作業をしっかりとサポートし、県としても対応に見直すべき事項がないか点検する」と説明した。基本計画は5年後には問題発生しを行う想定だが、より早い段階で改善が必要に

乳児死亡で 市原市長

再発防止「強い覚悟」

市原市で1月、衰弱状態で放置された生後10カ月の小西紗花(すずか)ちゃんが死亡した事件で、同市の小出謙治市長は15日、開会した定例会議の冒頭、「幼い命が奪えなかったことを真摯(しんしん)に受け止め、事件の検証と再発防止を最優先に実施する」と述べた。

一方、市議会の教育民生常任委員会(増茂誠二委員長)は、今月23日の委員会

で放言された。市は外部専門家による第三者委員会の設置を決めており、今議会に関連議案を追加で提出する。小出市長は調整が済み次第提出する考えで「県立後、速やかに検証(1)を受け止め、事件の検証と再発防止を最優先に実施する」と述べた。

一方、市議会の教育民生常任委員会(増茂誠二委員長)は、今月23日の委員会では同事件を取り上げることや、児童虐待防止条例の改正案を決定した。東宮経管短期大学の鈴木秀洋准教授を委員に招き意見を聞く。増茂委員長は「強い覚悟」で再発防止の徹底を誓った。

ちゃん(命を)救えたのが専門家を入れて検証したい。再発防止のための委員会にしたい」と語った。小出市長は、野田市立小(小年の栗原心愛(みあ)さん)当時(10)が昨年1月に死亡した虐待事件で、県児童相談所の対応を調査する県検証委員会の副委員長を務めている。児童虐待防止の徹底を誓った。